

# ふるさと 吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。

## 第32回 御神幸と皇后石

### 伝統行事「御神幸」

稲穂の実りが深まる9月半ば。町内に、笛と太鼓のお囃子とともに練り歩く人々の行列ができます。八幡古表神社の主要祭礼である「御神幸」は、子どもから大人まで多くの氏子が参加する一大行事で、9月21日の直前の土日に行われます。起源は8世紀、稲虫の災いを抑えるために古表神社の息長大神宮・古表大明神の二殿の神輿が広津山に行幸し御旅所で大祓の神楽を奏したところ、豊作となったことによるとされます。

9月とはいえまだ強い日差しの中、笛や太鼓を奏しながらの歩みは非常に体力を消耗するため、道中で飲む麦茶の美味しさは格別。また、お昼には天仲寺山の頂上で昼食を取ったあと、お囃子競演会も開催されます。各地区で刺繍などが異なる傘鉾も見どころの一つで、素朴ですが、脈々と受け継がれてきた伝統行事です。



御神幸の列と稲穂の実り

### “神々しい”石

さて、御神幸の列は、昼休憩の後、町の北側へ進んでいきます。次の目的地は、「皇后石」という巨石が祭られている場所。皇后石は、周囲4.6m、高さ1.2m余りのしめ縄が張られた大きな石で、八幡古表神社の発祥の地（元宮）とされており、御神幸での神幸場となっています。“神々しい”その名前の由来は「神功皇后」に縁起をもつことによります。神功皇后は八幡古表神社の祭神で「女神騎牛像」の黒牛にまたがる姿でも



皇后石

知られており、吉富町だけではなく京築地方各地に多数の伝説が伝えられています。

皇后石の姿は、江戸時代の古地図でも確認することができます。その周辺からは弥生時代の祭祀土器も出土しており、巨石信仰、また海の神をまつた祭祀跡でもあったといわれています。なお、上部にある穴にたまった水を付けるとイボが落ちるといいう信仰もあり、「イボ神様」とも呼ばれています。



古表神社の古地図「小祝」絵図面」右中央の白い島（高浜）の対岸の陸地に石が描かれているのが分かります。

### かつての賑わい

「皇后石」といえば、昔から吉富町にお住まいの方にとっては「社宅」というキーワードを連想する方も多いのではないのでしょうか。昭和末期頃まで、皇后石の西側には吉富製薬（現在の田辺三菱製薬吉富工場）の社宅がずらりと立ち並び、一つの集落を形成していました。過去には銭湯や保育園、公園などもあり、運動会なども開催されていたようです。付近の社宅も含めて「皇后石・延命」という名前で1つの地区として存在し、多くの社員とその家族の日々の暮らしがありました。その後社宅は廃止され、現在は企業用地などとして活用されています。

時代とともに変遷する景色の傍らで、いにしえより変わらぬ姿でひっそりと佇む皇后石。その聖地を目指し、御神幸の列は今年も町内を練り歩きます。



皇后石社宅の風景(昭和24年頃)

この連載では、「ふるさと吉富町」を後世に伝える古い写真やエピソードを募集しています。掲載しても差し支えないものがあれば、是非ご紹介ください。なお、誌面の都合などによりご紹介できない場合もありますので、ご了承ください。問合せ：企画財政課(☎24-4071)

吉富町ホームページ 吉富町公式twitter 吉富町facebook 吉富町facebook (来ちゃん?よしとみ)

■URL:<http://www.town.yoshitomi.lg.jp/> ■E-mail:[info@town.yoshitomi.lg.jp](mailto:info@town.yoshitomi.lg.jp)

